

1. 農場実習

平成11年度に実施した農場実習の科目名と各科目の履修者数を表に示した。これまで農場実習は主として農地生産力開発学講座の教官が担当してきたが、昨年度に引き続き作物機能調節学講座の教官も担当しその数も増えた。来年度以降も、学部全体で学生の実習教育を担当しようとする動きが、大きくなることを期待したい。農場実習以外の科目については、昨年度とほぼ同様の体制で実施した。

表 農場実習授業科目と履修者数

科目名	年次	単位数	履修者数(名)
農場実習Ⅰ（前期）	3	2	
Aコース			11
Bコース			16
Cコース			15
農場実習Ⅱ（後期）	3	2	
Aコース			4
Bコース			5
Cコース			4
農地生産力			
開発学実習Ⅰ	3	2	10
開発学実習Ⅱ	4	2	13

（1）農場実習Ⅰ（前期）・Ⅱ（後期）

3年次生を対象に以下の3コースを前期・後期の3・5時限に開講した。

Aコース（木曜日）（畑作・水田を中心）

Bコース（木曜日）（果樹・野菜・花）

Cコース（金曜日）（畜産を中心）

授業の目標と概要：農学は応用科学であるので、講義と実験だけではその本質に触れることはできない。たとえ将来実験室中心の仕事に従事したり一見農学と関係のない企業に就職するとしても、人間の生活を支えている食料生産がどのように行われているのか、そのためにどんな知識やノウハウと努力が必要なのか、作物や家畜はどんな顔をして育っているのかということを、実際にそれらを見て取り扱い、考えてもらうことを目標とした。

農学を含む生命科学に関係する多くの分野で、画期的な業績を挙げた人々のことはよく知られている。しかし彼らのほとんどが最初から最後まで長い年月に渡って、自分たちの研究材料である生物を自ら栽培・飼育・観察していた、という事実を忘れてはならないという点を両実習においてとくに強調した。

実習Ⅰ・Ⅱの構成：農場実習は元来、1年を通じて作物・家畜の栽培・飼育の体系、圃場・気象の条件な

どを、系統立てて学ぶことが望ましい。しかし学部全体のカリキュラムや学生の分属システムなどとの関係から、通年実習とせずに前期（Ⅰ）と後期（Ⅱ）を分けて別科目とした。従って専門領域を栽培・畜産系とする学生はⅠ、Ⅱとも受講することが望ましいが、Ⅰ、Ⅱのコース選択は必ずしも同一でなくてもよいとした。それは講座開講の専門実習もあるので、それらとのバランスを考慮して、目指す専門領域と異なるコースをも受講することにも意義があると考えたからである。

Ⅰ、ⅡともにA（畑作・水田中心）、B（果樹・野菜・花卉中心）、C（山地畜産中心）のコースに分けて実施した。

学生の反応：全体として、圃場における作業の要領を比較的早く理解できるようになってきた。しかし、自ら工夫してよりよい方法を試してみる、さらにそのことを仲間に伝達し共に楽しく作業効率を高めようという意欲の有無という点においては、農場実習Ⅰにおいてすでに個人差が認められるようになってきた。実習中にそのようなリーダーシップの発生過程に対する反発が強くなるようなことはなかった。すでに学生間で自分たちの、比較的狭くなってきた学部内での生活における秩序維持の感覚と、就職難などの社会的環境や大学外での多様な体験をも含めた

彼らの安定志向の表出なのかもしれない。しかし農場実習Ⅱの段階では、ある場面ではフォロアー的な立場に甘んじていたように見えた学生も、時に興味ある反応や発想を表現することがあって、彼らの今後の成長を信ずべきだと思わせられたことも多かった。

その他、農場実習の今後のあり方など：全般的に我が国の高等教育の再検討がなされつつある中で、今

後岡山大学がどのようにして新たな展開をはかるべきかについて多くの論議がなされている。さらに直接的には全国の国立大学附属施設の長期的なあり方について再検討を要請されている中で、当附属農場の実習教育・研究を当面どのように構想し実施すべきかという問題については、今後の大学院改組との関連をも考慮する必要がある、またより短期的には農学部における学部教育が新カリキュラムに移行す

(1) 農場実習Ⅰ・Ⅱ

Aコース日程表(木曜日, 3～5時限)

月日	内 容	担当部門等	担当教官	備考
前期				
4.15	オリエンテーション	技術部	全員	
4.22	作付計画	クローピングシステム	黒田	
5. 6	水稻作付計画と種粃の予措	汎用耕地	齊藤	
5.13	ブドウの新梢管理	果樹	久保田	
5.20	ムギ類の播種と交配	クローピングシステム	吉野	
5.27	水稻播種と乾田直播	汎用耕地	齊藤	
6. 3	ブドウのジベレリン処理	果樹	福田	
6.10	牛の取り扱い	山地畜産	河本	津高牧場
6.17	タマネギの収穫	野菜・花き	村上	
6.24	水稻移植	汎用耕地	斎藤	
7. 1	ブドウの摘粒	果樹	福田	
7. 8	畑作収穫	クローピングシステム	黒田	
7.15	サトイモ培土	果樹	久保田	
7.22	ロボットによる省力作業	機械システム	門田	
7.29	果樹の接木	果樹	久保田	
後期				
10. 7	オリエンテーション	技術部	全員	
10.14	キクの摘蕾	野菜・花き	後藤	
10.21	水稻収穫	汎用耕地	斎藤	
10.28	カキの収穫・脱渋	果樹	福田	
11. 4	畑作収穫	野菜・花き	村上	
11.11	ムギ類の播種	クローピングシステム	吉野	
11.18	畑作収穫	クローピングシステム	吉野	
11.25	畑作収量調査	クローピングシステム	黒田	
12. 2	稲藁収納	汎用耕地	斎藤	
12. 9	サトイモの収穫	クローピングシステム	吉野	
12.16	圃場整備	クローピングシステム	黒田	
1.13	和牛の審査	山地畜産	河本	
1.20	水稻収量調査法	汎用耕地	斎藤	
1.27	果樹の剪定	果樹	久保田	
2. 3	農業機械の操作	機械システム	難波	

る過渡的段階にあるという現状にも配慮が必要である。

しかしこのような多くの複雑な背景があるにしても、「(2) 農場実習Ⅰ・Ⅱの目標と概要」で前述したように、人類を含む地球上のあらゆる生物とそれを取りまく環境を対象とする研究においては、たえず自らの手で生命に触れることが必須である。とくに人類の食料生産確保を目指すべき応用科学である農学においては、フィールドでの体験をベースとして

研究が存在しうるということを学ばせる実習教育が重要である、ということを忘れてはなるまい。個人がなし得る研究の範囲がますます狭くなる可能性が高いことを考えれば、農学部における教育の早い段階において1回に少人数を対象として、生物学の基本に関する講義に関連しかつ比較的長期間連続する、相当の肉体的労力をも伴う実習内容とその方法とを追求する必要があると思われる。

B コース日程表 (木曜日, 3~5 時限)

月日	内 容	担当部門等	担当教官	備考
前期				
4.15	オリエンテーション		全員	
4.22	リンゴの受粉	果樹	福田	
5. 6	キクの挿し芽・定植	野菜・花き	後藤	
5.13	果菜類の定植	野菜・花き	村上	
5.20	ムギ類の種と交配	クローピングシステム	吉野	
5.27	作付計画	クローピングシステム	黒田	
6. 3	モモの摘果・袋掛け	果樹	久保田	
6.10	牧場概要・牛の取り扱い	山地畜産	河本	
6.17	ブドウのジベレリン処理	果樹	福田	
6.24	水稻移植	汎用耕地	斎藤	
7. 1	ブドウの摘粒・袋掛け	果樹	福田	
7. 8	キクの摘蕾	野菜・花き	後藤	
7.15	カキの摘果	果樹	福田	
7.22	ロボットによる省力作業	機械システム	門田	
7.29	果樹の接木	果樹	久保田	
後期				
10. 7	オリエンテーション		全員	
10.14	キクの摘蕾	野菜・花き	後藤	
10.21	水稻収穫	汎用耕地	斎藤	
10.28	カキの収穫・脱渋	果樹	福田	
11. 4	球根類の定植	野菜・花き	後藤	
11.11	ムギ類の播種	クローピングシステム	吉野	
11.18	タマネギの定植	野菜・花卉	村上	
11.25	畑作収量調査	クローピングシステム	黒田	
12. 2	稲藁収納	汎用耕地	斎藤	
12. 9	サトイモの収穫	クローピングシステム	吉野	
12.16	圃場整備	クローピングシステム	黒田	
1.13	和牛の審査	山地畜産	河本	
1.20	葉菜類の収穫・残菜収納	野菜・花き	村上	
1.27	果樹の剪定	果樹	久保田	
2. 3	農業機械の操作	機械システム	難波	

(2) 農地生産力開発学実習・実習Ⅱ

カリキュラムの再編により、今年度から3年次生を対象にした授業科目の農地生産力開発学実習Ⅰが農地生産力開発学実習となった。

授業の目標と概要：農地生産力開発学実習と開発学実習Ⅱについては、農業技術者、農業教育者、地域農業指導者としての資質を強化する目的で、学生の

所属する分野教官が主として担当し、内容の一部を集中実習としてこれまで、同様に本島農場で実施した。本島農場では、夏期に雑柑類の摘果を、冬期に収穫をそれぞれ行った。昨年に比べ、温州ミカンに着果量が多く結実率も良好であった。そのため、12月の収穫作業は例年に比べ十分な時間をあてることができ、実習効果も高まった。収穫作業の後に行った柑橘類の試食会も、学生に好評であった。

Cコース日程表（金曜日、3～5時限）

月日	内 容	担当部門等	担当教官	備考
前期				
4. 9	オリエンテーション	技術部	河本・岸田・吉野	
4.16	キクの挿し芽・定植	野菜・花き	後藤	
4.23	作付計画	クローピングシステム	黒田	
4.30	牛の取り扱い	山地畜産	河本	
5. 7	乾草調製	山地畜産	河本	
5.14	和牛の管理	山地畜産	河本	
5.21	試験場見学	山地畜産	近藤（康）	
5.28	草地の管理	山地畜産	岸田	
6. 4	サイレージ調製	山地畜産	岸田	
6.11	和牛の削蹄	山地畜産	岸田	
6.18	牧場等見学	山地畜産	近藤（康）	
6.25	水田管理	汎用耕地	斎藤	
7. 2	ブドウの摘粒・袋掛け	果樹	久保田	
7. 9	果菜類の収穫	野菜・花き	村上	
7.16	ロボットによる省力作業	機械システム	門田	
後期				
10. 1	オリエンテーション	技術部	河本・岸田・吉野	
10. 8	和牛の管理	山地畜産	岸田	
10.15	和牛の飼育管理	山地畜産	岸田	
10.29	子牛の去勢	山地畜産	河本	
11. 5	和牛の審査	山地畜産	河本	
11.12	SAGU Systemの修得	山地畜産	黒田	
11.19	和牛の審査	山地畜産	河本	
11.26	家禽類の飼育管理	山地畜産	岸田	
12. 3	稲藁収納	汎用耕地	斎藤	
12.10	草地の管理	山地畜産	岸田	
12.17	サトイモの収穫	クローピングシステム	吉野	
12.24	和牛の審査	山地畜産	河本	
1.14	和牛の削蹄	山地畜産	岸田	
1.21	農業機械の操作	機械システム	難波	
1.28	草地の管理	山地畜産	岸田	

2. 牧場実習

牧場実習は、本学と島根大学および鳥取大学との間で単位互換制をとっており、3年次生を対象とした1単位の科目である。なお、本年度から岡山大学の受講生は2単位となった。それに伴い、実習の時間数が大幅に増えた。そして、応用動物機能学講座の教務委員、津高牧場の兼任教官と農場専任教官からなるワーキンググループを発足させ、実習の内容について原案を作成し、これまで以上に教育効果を高めるための準備をした。その結果、37名の履修者があり、昨年度の12名を大きくこえた。以下、平成11年度における牧場実習の受講者数、日程表、学生の感想と要望についてそれぞれ示した。

表 牧場実習の受講者数

大 学 名	受 講 者 数 (名)
岡山大学	23
島根大学	4
鳥取大学	10
合 計	37

学生の実習に関する感想と要望

●想像以上に楽しく過ごせた。料理当番も楽しく、岡山県の特産品なども食べることができ、嬉しかった。牛の分娩に立ちあったものの、死産となってしまう、非常に残念だった。8/30が予定日だった牛が出産してくるかも・・・と期待していたが、残念ながら見られなかった。

作業等はなかなかきつかったが、牧場ならではの仕事もでき、充実していたと思う。ただ、昼食後に休み時間を30分程とってももらえると、午後の講義をもっと有意義なものにできたと思うので、来年からは休憩時間を取り入れることを提案する。

4泊5日はちょっと長い気がする。2泊目あたりでもう帰りたくなってしまった。せめて3泊4日にしてはどうでしょうか？

他大学の子とも仲良くなれ、とても良かった。各教官、技官さんたちにとっても感謝しています。ありがとうございました。

●食事はおいしくボリュームもいい感じでした。

お風呂に12時頃入ったら水しかでなかったのもとってもとってもショックでした。

講義もたぶんおもしろいことをして下さったのですが、なにせ実習が大変で寝てました。昼休み(お昼寝)時間をつくったらどうでしょうか？

やっぱり実習は楽しかったです。あと子牛の生まれるところが見たかったです。

あと、アイスクリームおいしかったです。作って下さった方、ありがとうございました。

●実習は面白かった。

講義は使用した部屋が狭い為か、窮屈に感じた。スライドやビデオが見にくい席もあったので、やはり机の向きは食事時とは変えた方が良かったのかもしれないと思う。

牧場管理と畜舎実習は区別する必要はないと思った。

食事の用意は実習よりも忙しく、非常に疲れたので、金銭的に高くついても、自分達では作らない方が良かったのではないかな。

一番印象に残った事は牛の死産であった。死んだ子牛を解剖させてもらいたかった。

●「昼寝の時間」はぜったい必要だ！！どうせ講義の時間寝てしまうくらいだったら講義遅らせてでも1時間くらい昼寝の時間をとるべき。ほとんど昼の講義は全滅で意味ないと思います。それにあくまで実習なんだからもっと実験とかやってほしい。講義なんて、こんなとこまで来なくてもできると思います。

ごはんはとても豪華でした。でも多すぎた気がします。

全体的には良かったと思います。いろいろありがとうございました。

●楽しい実習でした。でも4泊5日は少し長かったです。

お昼に1時間、昼寝の時間がほしいです。作業が多かったのが良かったと思います。初めて牛の世話をして、最初は恐かったけど、慣れると牛舎実習が楽し

牧場実習日程表

時刻	8月30日（月）	8月31日（火）		9月1日（水）		9月2日（木）		9月3日（金）	
6:00		起床		起床		起床		起床	
		牧場管理 炊事 岸田		牧場管理 炊事 岸田		牧場管理 炊事 河本		牧場管理 炊事 河本	
		朝食 清掃		朝食 清掃		朝食 清掃		朝食 清掃	
		畜舎実習 野久保・川畑		畜舎実習 野久保・川畑		畜舎実習 野久保・川畑		畜舎実習 野久保・川畑	
7:30		I 班 直腸検査の 基礎と応用	Ⅱ班 飼料の貯蔵 と利用	I 班 人工授精と 受精卵移植 の基礎	Ⅱ班 和牛の審査	I 班 草地の管理	Ⅱ班 和牛の衛生 管理	I 班 和牛の衛生 管理	Ⅱ班 草地の管理
		奥田	西野	舟橋	河本	岸田	近藤	近藤	岸田
8:30		昼食 休憩		昼食 休憩		昼食 休憩		昼食 休憩・清掃	
		集合 移動							
9:00		I 班 飼料の貯蔵 と利用	Ⅱ班 直腸検査の 基礎と応用	I 班 和牛の審査	Ⅱ班 人工授精と 受精卵移植 の基礎	乳の加工と検査法 宮本		人と動物 阿部	
		西野	奥田	河本	舟橋	食肉の色調変化 泉本		家畜の種・品種と 遺伝的特性 佐藤	
12:00		畜舎実習 野久保・川畑		畜舎実習 野久保・川畑		畜舎実習 野久保・川畑			
		入浴 夕食 交流会・片付け		入浴 夕食		入浴 夕食			
13:00		講義： 牛の繁殖管理 丹羽		講義： 牧草蛋白質を食べる ー緑葉蛋白の話ー 西野		懇親会 片付け			
		自由時間		自由時間		自由時間			
14:00		消灯		消灯		消灯			

みになりました。食事が、かなり良くて、おいしかったです。島大の4人が班も部屋もみごとにバラバラで、話せるようになるまではつらかったです。

サイレージづくりや出産や人工授精と、たくさんの体験を通して、畜産の大変さがわかりました。講義もかなりつらかったけど、島大のように畜産のないところから来た私には、理解の助けになりました。

●とても内容の濃い実習だったと思います。私は畜産を勉強していないので、実際に牛に触れたり、給餌したり、排糞したりできた事が一番良かったです。直腸検査や、子宮に実際に人工授精器を入れるのは、精神的なショックが少しあったけれど、良い経験になりました。ただ、講義や実習が朝から晩までびっしりつまっていて、休む暇がなくて大変疲れました。夕食後の講義は、疲れているので、どうしても眠くなってしまうので、できれば、やめてほしかったです。あと、朝食や昼食後、すぐ行動しなければならなかったのも、休憩時間がもう少し欲しかったです。食事はすごくおいしくて満足でした。バーベキューもとても楽しかったです。3日目くらいまでは4泊5日は長すぎると思っていました、振り返ってみると、短かったような気がします。

普段は、他大学の人たちと一緒に講義を受ける事はないので、この実習に参加して、他大学の方々と交流をもてた事もよかったです。

あとは、島大と島大が二単位なら良いのですが。

教官の先生方、お疲れさまでした。ありがとうございました。

●1日目、2日目あたりでかなり帰りたくて、きつかったけど、バーベキューの時点で、あともう少しで帰れるという実感がわいてきて、楽になった。4泊5日は短いようですごく長かった。

この実習の間の楽しみといえば食事くらいしかなかったけど、それなりになかなかおいしくて良かったと思う。食事の準備係になれば、作業がないという小さな喜びもあった。

実習の内容についてだが、講義はほとんど寝ていて聞いてなかった。作業については、人数が多すぎるという印象があった。班の数を増やして、ローテーションで作業を休めるようにすればいいのに・・・と思った。さらに、飲み会の後の作業や6:00起床はかなりきつい。最終日はゆっくり起きて、掃除をしてあとは帰るだけという風ならいいのに。

とにかく終わって良かった。先生方お疲れさまでした。

●今回の牧場実習に参加して良かったと思う。食事もおいしかったし、他大学の人も仲良くできて楽

しかった。実習は2日目、3日目には最終日まで体力的に持たない気がした。いろいろな事をさせてもらっておもしろかった。昼食後はほんとにしんどかったのも、昼寝できる時間がほしい。講義はたくさん寝てしまった。”和牛の衛生管理”のときの牛の採血がおもしろかった。

4日目の夜の懇親会で、いろんな人と話ができて良かった。岸田先生お疲れさまでした。

●直腸検査や採血、人工授精の方法など、機会がないと行えない体験が出来、とても勉強になった。午後の講義では、作業の後ということで、ねむくなり易いので、きびしい面もありましたが、今回の牧場実習スケジュール（カリキュラム）はなかなか良いものだったと思います。

他校との交流の場も何回もあったし、宿泊棟での生活もそれなりに自由にさせていただいたので、とても楽しく、牧場実習を行いました。

また、お風呂もほぼ24時間入浴できたので、シャワーを浴びたいと思った時に浴びることができた事も、私たちにとってはうれしい事でした。ただ、湯舟に水をためている間はシャワーからお湯が出なかった事が残念です。

●長いと思っていた実習もあっという間に終わってしまいました。

この実習をとって感じたことは農家の大変さでした。私は5日間しかしませんでした、農家の人は365日年中無休で働いていると思うと、私には絶対無理だと思いました。

初めて、牛の出産を見ることができたことも、いい経験でした。死産でしたので残念でしたが、このようなハプニングも起こりうる事が分かり、ためになりました。数パーセントの確率でしか起こらないことに遭遇できたと思うと、ラッキーだったのかもしれない。

実習の内容は充実していたと思います。大学の実習等で経験済みのものもありましたが、忘れかけているものもありよい復習になりました。

講義の中で一番心に残っているのは、「家畜としての和牛の意味」でした。ビデオを見ましたが、獣医学科のものにとっては、今後、大動物臨床を目指す時にとっても参考になるビデオでした。食事後や夜の講義でスライドばかりで説明されると、居眠りをしてしまいがちなので、食事後は講義をなるべく避けるor眠くならないように工夫してほしいです。

食事は良かったと思いますが、レトルトや冷凍のものがすごく多くて、温かみがなかったです。手間がかかるかもしれないけど、自分達で簡単に作れるものにした方がいいと思いました。

●私は島根大学から初めて他大学の講義に参加しましたが大変有意義なものでした。まず嬉しかったのが食の充実と自由行動の多さでした。他大学へ来てドキドキしていた所へ「食べることも大切！岡山を楽しんで下さい。」や「夜、飲みたい人もいると思うので」等々、すごく自由が許されているのにはビックリしました。

実習についてはすごく楽しく、すごく興味がもてました。私は生態環境科学科へ行っていますが、畜産に関係することはまったく学習しておりません。農業高校へ行っていた時に少しだけ経験しているぐらいでした。しかし、岡山大学の先生方は教え方が大変分かりやすく、まったく知識がなくても十分理解できるし、興味ももてました。何より牧場実習の名にふさわしく、実習中心になっているため、講義を聞くよりよく分かり身についたと思います。変に長い授業をせず、本当に今必要な内容に沿った要点だけを教えて実習にうつる手際の良さには毎日毎日驚きました。何より一番自分で驚いたのが、講義で眠いはずなのに寝ずに起きていたことです。それも講義がおもしろく興味をもてたからだと思いました。4泊5日なんてすごく長いんだろうと思っていましたが、あっという間に明日で終わりという状態。いかに自分がこの講義に夢中になれたかということが分かりました。

一つづつだったのがスケジュールのハードさでした。実は8月9日に貧血で倒れて、この講義に来るまで20日近くずっと寝たきりだったんです。この集中の間もずっと薬を飲んでいました。体調のいい人でもつらいなら、もう少しスケジュールをゆるめないと講義中寝てしまうなど実にもったいない状況をつくってしまうと思います。(せっかく楽しいのに)今回は何とかして起きててもらおうとしていた先生方の温かい心づかいにより、さまざまな形であきのこない集中講義でした。

今まで島根大学でも集中を受けてきましたが、ここまで楽しかった集中はありませんでした。本当にいい勉強、いい経験ができたと大変感謝しております。本当にこの4泊5日お世話になりました。また機会があれば参加させていただきたいです。あとは単位が2単位になるようお願いのみです。

●岡山大学の学生がリーダーになってもっと動ければよかった。(特に山畜の学生)他大学の方も積極的に動いていたので良かった。津高牧場の外観、立地条件を詳しく知れたかったので、沿革、見学の時間をたくさんとって欲しかった。(9月1日現在)

畜舎実習では時間をもてあましている人も何名か見られたので、人数の配分を少なくした方が、作業効率が上がると思います。(大学生ならば、自分で何か

仕事を見つけることが出来ると思うのですが)

講義中に寝ている学生さんも多々おられましたが、せっかく先生方が夜に講義をして下さっているのに、もっと気合いを入れて聴くべきだと思う。または、夕食後、少し休憩の時間を取っても良いと思う。

鳥大、鳥大の方が、野久保技官に進んで質問をしているのはとても素晴らしいことだと思った。8月31日に死産だった子牛がいたが、胸が苦しいという気持ちと同時に、出産とはこのようなものなのかと痛感した。人工授精から2細胞期→胚盤胞→胚への発生、着床、など多くの過程を経て出産までに至ることを意識することが農学部にはいった意義だと感じる。ただ子牛が生まれるところを見たいというだけでは、農学部にはいった意義がないと思う。そのあたりを皆さんがどう思っているのか知りたい。出産までの知識を得るための講義だったと感じるので、寝ている人はもう少し頑張って聴いて欲しかった。私も西野先生の講義が聴けなかったのも、とても残念です。

●4日間お世話になりました。疲れましたが楽しい実習でした。

牧場実習という割に、外での実習が少なく、牛と実際にふれあうチャンスが無かったのが残念でした。直腸検査と血液採取がすごく「実習」という感じがして良かったです。

朝、夕の畜舎実習は人が多く、何もすることが無い人もいたのが残念だったと思いました。もっと人も少人数ずつ振り分けたいのに・・・と思いました。

今回の実習は欠席者が多いとのことでしたが、集中の届出を出す期日が夏休みのだいぶ前なので、届出を出しても、先の予定が見えない分、”一応届出だけを出しておこう”という学生が多かったのではないかと思います。夏休みに入る直前にもう一度、出席者(キャンセル者)確認をとったら良いのではないかな・・・と思いました。

講義は60分という短時間だったので、先生方も内容をより濃いものに・・・と工夫して下さったせいか、興味深いものが多いと思いました。ただ、朝早くからのなれない作業で体が疲れて、眠ってしまう学生が多く、先生方がせっかく授業をしても聞いていない・・・という状態が続いてしまい残念だったと思います。

せっかく学校から離れ、周辺が農業環境に適した所なので(!?),外に出て、空の下での勉強がもっともっとあったらいいのに・・・と思いました。(例えば、草刈りをしながら雑草の名前やその管理・・・?を覚えるとか)

●朝が早いのがだめでした。それ以外のことは何もかもが新鮮で受講してよかったなあと思います。

初めて牛と接してみてよい体験が出来た。食事が楽しみでした。お風呂の順番待ちがつかったです。

●内容について：実習については問題ないと思う。講義が睡眠時間になっているくらいが多少ある。

食事について：今日までの合宿の中で最も旨いものを食べさせてもらった。来年もこのシステムでこの水準のものなら満足させられると思う。

その他生活全般：お風呂については自分的に問題ない。ベットについては上段はかなり注意しないと「メキッ」とか「バキッ」とかいう音が多少恐かった。

参加費：最初は少し高いと思ったが、後に、それほど気にならなかった。

総合：全体に良い授業だった。楽しかった。

●昼間の休憩が短かったのが少しきつかった。食事が豪華でとても多かったです。もう少し少なくても良かったかな……。実習では、お産を見れたり、牛とすごく近くで接することができたりできて良かった。期間が少し長いな、という気がした。

●講義を受けながらの実習（直腸検査、審査、人工授精、採血）は、頭で理解するだけでなく、体で憶えられるのでとても解りやすかったです。

講義よりも、食事を作る方が大変でした。時間に余裕がなくて、実習から講義に移る時など、バタバタして大変でした。実習内容はとても良いと思います。体を動かして作業をするとすぐに憶えられて良かったです。

●もっと実習が多いと思っていたら、結構講義が多かった。私としては実習が多い方がいいと思う。講義をしてもらってもやっぱり慣れない生活での疲れがあって眠ってしまうし、せっかく牧場にいるのだからその方がいいと思う。

ご飯は少し量が多い。自炊をするというのは班で協力して行うという点も含めて良かった。

今回、牛の採血を行ったが良い経験になった。もっとこういうのが増えると実習に参加した意義があったともっと感じたと思う。

●牛と一日中関わったことはなかったので、牛の世話の大変さを実感した。牛の管理は、えさのやり方（種類）も一頭（小屋ごと）に違っていて、育て方によって考えなくてはならないことがたくさんあるのだと思った。残念だったのは元気な子牛の生まれるところが見られなかったことだが、生まれるところを見たのは初めてだった。すべてが自然に無事に生まれてくるのではなく、生まれるということは大変な事だと改めて思った。

生活については、朝のスケジュールが少しきびしかった。5分10分の休みでも寝ていた。ご飯はすごくおいしかった。きっと体重計に乗ったら恐ろしいことが起こっているだろう……

岡大、島大の人との交流もできて、すごく良い実習だった。

●楽しかったです。食事が豪華なのにビックリしました。でも講義は疲れていてほとんど寝てしまったので、作業後に休みをもっと取るとかすれば良かったと思います。他大学の人たちと交流もできたし、実際に牛に触れていろいろな作業をして世界が広がったような気がします。

●食事の充実はすごかった。レトルトが多かったのは、少し、あれだったけど、おいしく食べられた。

朝早くてきつかったが、来年からは、5時起床ぐらいでも良いのではないだろうか。なかなか良い実習だったと思う。

●牧場実習といえど、牛に直接触れるということが少なかったように思える。先生方の説明を聞き、知識を深めるのも良いことだが、これから動物を扱うものが、このような機会に牛に触れ、牛に慣れ親しむことも重要であると思う。

さすがに、1階での講義の際、みんな眠たそうである。また、奥田先生と舟橋先生が説明された内容が、共通する部分が多かったのも、そのような点は事前で打ち合わせ等をして頂けないかと思う。

●直腸検査、血液のサンプリング、えさやりなど、今までやったことがないことができ楽しかったです。僕は今まで、作物についてしか知らなかったけれど、今回の実習で動物と作物とのかかわり、人とかかわりを知り、いい経験になりました。

少し困ったのが洗濯でした。人数が多かったのも順番待ちが長かったです。1台水漏れがおこり大変でした。トイレが1階にあるのでわざわざ3階から降りてするのが面倒かったです。

お茶が常備してあったのには助かりました。

先生方の講義はスライド、OHPを上手く使用されており、また、様々な分野について学べたので良かったです。有意義な5日間だったのでこれからもずっと続けていってほしいです。それにしてもサイロは高かった。またのぼりたい。

●苦しかったけど、楽しい4日間でした。お世話になりました。

1日中作業服で過ごすことを最初にくれたプリントに書いていてほしかったです。また、洗濯機の数も教

えてほしかった。それから、ハンガーがないので、来年は増やすか、ハンガーか洗濯ひもを持参するように書いてほしい。

それから、今年、欠席者が大量に出たので、休まないように最初にお金を納めさせるか、〇〇日までに欠席の連絡をせずに休んだ人は、半額お金を払わせるなどのシステムをとるべきです。そうしないと、班の人数に差が出て、作業が大変です。

お風呂の順番争いがとても大変だったので、どうか工夫して、ズムーズにできないかな、と思いました。順番を決めて、その時間に入らない人は〇〇時以降に入るようにする等してほしいです。

授業は疲れていて、一度もまともに聞いていません。作業がもう少し楽になるとよいのにな、と思いました。でも、先生が寝かせておいてくれるので、作業を経験するのがメインということでよいのかもしれません。

*個人的に、お休みをもう30分増やしてほしいです。そうすれば、約1時間お昼寝ができるのにな・・・

●・事前に持ち物をもっと詳しく知らせて欲しい。普段着は必要ない、など。

- ・欠席するものは届出を出すようにしたらどうか。
- ・食事の量が多い。また、量(品数)の片寄りがある。(スイカが美味しかった。)
- ・スケジュールがつまっていて忙しい。
- ・班によって仕事量に差がある。
- ・他大学と合同である事は意義がある。(刺激し合える。交流ができる。)
- ・風呂場が小さい。(シャワーの数が少ない。)
- ・牛が身近に感じられてよかった。
- ・トウモロコシ刈り一番大変だった。(二番目は草地の管理の乾燥した草を運ぶこと。)
- ・血液採取は緊張したが良い経験になった。
- ・時間割だけでなく、講義の概容も簡単に載せて欲しい。(何を行うのかが分からない為。)
- ・全体を通して眠い。
- ・先生方が生徒の事をよく考えていて下さっているのがよく解った。

いい経験になりました。有り難うございました。

●朝6時の起床はきつい。朝起きて30分しか時間がないというのは少ない。せめて40分欲しかった。実習内容は前期の実習とほぼ一緒だったから少し楽だった。牧場のアイスはおいしかった。自由時間はたくさんあったから良かった。

実習で疲れている身にとっては講義はいい睡眠時間でいくらか疲れがとれて次の作業に行けたけど、講義している先生にとってはどうなんだろう、という感じだった。学生にとっては貴重な睡眠時間。

お金は当日ではなくてあらかじめ前から集めた方が赤字にもならなくていいのではないのでしょうか。とても疲れていつも帰りたかったけど、楽しかったです。

●必修ということもあり、最初はいいやや来しました。しかし、3日目、4日目になるにつれ、みんなと仲良くなり、作業もだんだん慣れてきました。いい経験しました。でも、もう来たくありません。やはり朝が早くスケジュールがきついからです。お世話になりました。

●何もかもが新鮮で受講してよかったです。講義や作業だけでなく、他校の人や多くの人たちと接することができて、とてもよい経験になりました。

●牧場実習のスケジュールは良いものだったと思う。ただ、牧場実習でこのアンケートを行うのはどうかと思う。理由は、アンケートの項目(内容)が、この実習に適していないからです。

お風呂の方はいつでも入れるように、ボイラーをつけておいて欲しいものである。なぜなら、汗ばむことが何度かあって、シャワーを浴びたいと思っても、水しかでないからです。

●かなり疲れましたが、実習の内容自体は思ったほどハードではありませんでした。ただ、食事の講義はどうしても寝てしまうので、お互いの為にもやめた方が良いと思います。それと、4、5日目の午後の講義の時間が長すぎるので、これも短くした方が良いと思います。言いたいことはまだまだありますが、始めに書いたように、想像していたよりは充実した実習でした。

3. 基礎農学実習

2年次生を対象に、前・後期に分けて、月曜日3-5時限に開講する。ただし、平成11年度からの新カリキュラムへの変更に伴い、本実習は今年度限りとなった。

授業の目標と概要:実際に作物を栽培したり、家畜を飼育することを通じて、刻々と変化する動植物に対する観察力や農業生産技術に対する洞察力を養い、農業生産における技術体系と、地域環境の保全に果たす農業の役割を、実際の一貫した農業生産の場における体験を通じて、広く認識できるようにすることを目標とした。

そのため、水稻、畑作物、野菜、花、果樹、家畜などを対象とした科目別実習に加えて、各班4-5名程度の班別実習を行った。前期はスイカ、後期はハウレンソウについて、播種から栽培管理、収穫、その後の実験結果の整理までを各班が責任をもって行うこととする。栽培記録と実験のレポートを前・後期それぞれの終了時に提出させ、出席率、実習に対する取り組みの態度などととも成績判定資料の一部とした。

構成:本実習は、基礎生物学実験、基礎分析化学実験とともに2年次開講の基礎実験・実習であり、前・後期の月曜日に分けて各45名程度の学生を対象に行われた。それぞれの学生は、前期は基礎生物学実験と基礎農学実習、後期は基礎分析化学実験と基礎農学実習とを併せて受講でき、それぞれの開講曜日を配慮したことにより、3科目すべてを受講することも

可能であるようにカリキュラムが編成されてきていたので、本年度もその方針に従った。

履修状況:前期:47名、後期:48名

学生の反応:おおむね真面目に、かつ日を経るに従い興味を持って楽しみながら履修する学生が増える一方、従来と同様、圃場での実習に意義を見出せず、ただ実習が終るのを待つ、ないしは真面目に実習をしている友人の足を引っ張るような言動をとる者もいた。しかし、そのような者は比較的少なく、ほとんどの学生はそのような者に対して適当にあしらい、自分と気の合う同級生とのペースを守って、フィールドでの実習を行い、それなりに自己充足感を味わっていたように思われる。

班別実習:本年度は、新規開講科目の増加その他の事情から、従来3種の作物を対象とした班編制であったものを1種に限った。本実習は毎日の観察と作業を必要とするため、1回の人数が大幅に増え、担当教官・技官の負担と、とくに後期のハウス確保の点で難しい問題が生じた。しかし担当教官・技官の努力と学部教務委員会および大学院の関係委員会の協力によって、Teaching assistant 2名を確保できて、なんとか実習を遂行することができた。

学生はこの実習に対して非常に熱心で教育効果も高いと思われるので、実施に際しての負担は大ではあるが、今後もなんらかの形で実施を継続したいと考えている。

基礎農学実習日程表

前期コース

月日	内 容	担当教官	実施場所	備 考
4.12	オリエンテーション	吉野他	附属農場	
4.19	草地の利用管理	岸田	津高牧場	
4.26	植生調査	吉川、坂本、嶋	半田山	
5.10	ムギ類の交配	吉野	岡山農場	
5.17	リンゴの栽培管理	久保田、福田	岡山農場	
5.24	昆虫相調査及び標本作成	中筋、藤崎、佃	半田山	
5.31	花卉の栽培管理	後藤	岡山農場	
6. 7	和牛の管理	河本	津高牧場	
6.14	野菜の栽培管理	村上	岡山農場	
6.21	水稻の栽培管理	齊藤	八浜農場	
6.28	畑作物の栽培管理	黒田	岡山農場	
7. 5	ブドウの栽培管理	久保田、福田	岡山農場	
7.12	農業団体や自家農家見学	小松	見 学	
7.19	農作業機械の構造と取扱い	難波、近藤、門田	岡山農場	

班別実習担当者: 吉田、村上

基礎農学実習日程表
後期コース

月日	内 容	担当教官	実施場所	備考
10. 4	オリエンテーション	吉野他	附属農場	
10.11	昆虫相調査及び標本作成	中筋, 藤崎, 佃	半田山	
10.18	水稻の収穫	齊藤	岡山農場	
10.25	植生調査	吉川, 坂本, 嶋	半田山	
11. 1	果樹の栽培管理	久保田, 福田	岡山農場	
11. 8	花卉の栽培管理	後藤	岡山農場	
11.15	野菜の栽培管理	村上	岡山農場	
11.29	栽培植物とその近縁種	吉野	岡山農場	
12. 6	畑作物の栽培管理	黒田	岡山農場	
12.13	ブドウの剪定	久保田, 福田	岡山農場	
12.20	草地の利用管理	岸田	津高牧場	
1.17	農作業機械の構造と取扱い	難波, 近藤, 門田	岡山農場	
1.24	和牛の管理	河本	津高牧場	
1.31	農業団体や自営農家見学	小松	見 学	

班別実習担当者：吉田, 村上

4. 教育学部栽培実習

「栽培実習」日程表（前期 金曜日 3～4時限）

月日	実 習 内 容	担当教官	実施場所	備考*
4.16	オリエンテーション	久保田	岡山農場	
	キクの挿し芽・定植	後藤	〃	Cコース
4.23	作付計画	黒田	〃	Cコース
4.30	リンゴの受粉	久保田	〃	
5. 7	果菜類の定植	久保田	〃	
5.14	ブドウの新梢管理	久保田	〃	
5.21	リンゴの摘果	久保田	〃	
5.28	モモの摘果・袋掛け	福田	〃	
6. 4	果菜類の栽培管理	久保田	〃	
6.18	サトイモ培土	吉野	〃	
6.25	水田管理	斎藤	〃	Cコース
7. 2	ブドウの摘粒・袋掛け	久保田	〃	Cコース
7. 9	果菜類の収穫	村上	〃	Cコース
7.16	ロボットによる省力作業	門田	〃	Cコース
7.23	果樹の接ぎ木	久保田	〃	

*農場実習のCコースと合同で実施

5. 岡山大学教育学部附属養護学校「職場体験学習」

職場体験学習は、養護学校が教育の一環として仕事に対する心構えや意欲を育てることを目標に、生徒に初めて校外での職場体験をさせるものである。当農場の協力も3年目となり、技官の対応も非常に滑らかなものとなった。

実施日時：10月6日～8日

参加人数：高等部2年生の男子2名、女子6名。指導監督のための教官2名。

結果：事故もなく無事に終了した。生徒たちもそれぞれ能力に応じて熱心に作業を行い、満足感を味わったようであった。技官サイドもやはり緊張はするものの、協力しただけのことがあったと思われる。